

但馬地域における水生昆虫の生息調査

泉山真寛

はじめに

兵庫県但馬地域は、兵庫県北部に位置し、豊岡市・美方郡・養父市・朝来市から構成されている。北は日本海、南は播磨地域及び丹波地域、東は京都府、西は鳥取県に隣接している（兵庫県HP）。自然環境に関しては、日本では絶滅してしまったコウノトリの野生復帰が豊岡市を中心に展開されており、湿地や溜池、休耕田を活用した水田ビオトープなど、さまざまな水辺環境が整備されている。そのような水辺環境では、コウチュウ目やカメムシ目をはじめとする多様な水生昆虫が生息している。中には、希少な水生昆虫も生息しており、生息環境の把握と保全が必要である。

調査方法

今回の調査では、特にゲンゴロウ類（コウチュウ目）の生息状況の確認を目的として、2022年4月～2024年12月の間に調査を実施した。調査方法としては、まず国土地理院地図を活用し、但馬地域内（特に、豊岡市・美方郡・養父市）にある水域（溜池や水田ビオトープなど）を探し出した。次に、対象とした調査地点で約30分～60分程度、たも網で水際を掬い取り、捕獲したゲンゴロウ類の同定を行った。



写真 調査した水域の一部

調査結果・まとめ

今回の調査から、クロゲンゴロウ *Cybister brevis* は、豊岡市・美方郡・養父市の広範囲で生息が確認された。水域によって生息が異なるものの、但馬地域内で安定して、繁殖していると考えられる。また、マルガタゲンゴロウ *Graphoderus adamsii* およびシマゲンゴロウ *Hydaticus bowringii* は、豊岡市および養父市の水域で局所的に生息が確認された。筆者は、20 年ほど前から養父市内を中心に水生生物の調査を行っている。当時と比べると生息しているゲンゴロウ類の様相も大きく変化していると感じる。これまで、シマゲンゴロウやマルガタゲンゴロウなどは捕獲できなかった。もちろん、元来、彼らが生息していた可能性はあるものの、豊岡市周辺の湿地で多く捕獲できるゲンゴロウ類が、徐々に南下し、但馬南部でも発見されつつあると考えられる。



クロゲンゴロウ



マルガタゲンゴロウ



シマゲンゴロウ



コガタノゲンゴロウ

そして、今回の調査では、コガタノゲンゴロウ *Cybister tripunctatus lateralis* が、美方郡および養父市で初めて確認された。本種は、全国的にも個体数が減少し、環境省のレッドデータカテゴリでは、絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に指定されている。また、兵庫県内では、絶滅危惧Ⅰ類 (Aランク) に指定されている (兵庫県の貴重な自然 兵庫県版レッドリスト 2012 (昆虫類))。コガタノゲンゴロウは飛翔性向が強く、分散距離も数kmと推定されている (國本 2005、2006)。南方系のゲンゴロウであるが、今後も生息場所の条件や保全によって、個体数が増加していくと推察される。本調査は、簡易的なものであるため、今後は広域の調査を進めるとともに、保全上重要な水域を精密に調査し、分析していきたい。

参考・引用文献

- 國本洗紀、2005. コガタノゲンゴロウの生態 (その1)-越冬場所と繁殖地-. ゆらぎあ、23 : 1-7.
國本洗紀、2006. コガタノゲンゴロウの生態 (その2)-繁殖地と越冬地間の移動-. ゆらぎあ、24 : 1-6.